

人間学部 基本教育科目カリキュラムマップ

ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	石巻専修大学では、各学部学科所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与します。 1 知識・理解 (1)幅広く豊かな教養を身につけている。 (2)学んだ専門分野の基本的な知識を身につけている。 (3)学問の体系性や方法論を理解している。 2 技能・表現 (4)情報を収集し、自分の考えをさまざまな方法で的確に伝えることができる。 3 思考・判断 (5)課題に対して 問題点を抽出し、学んだ専門分野の手法を用いて考察し判断できる。 4 関心・意欲 (6)学んだ知識・技術をもって地域社会や職場の諸課題に積極的に取り組むことができる。 5 態度・志向性 (7)生涯にわたって学ぶことができる。 (8)他者の意見を理解し、社会の中で柔軟に協調した対応ができる。 (9)自らを律し、自発的主体的に行動できる。 6 健康・体力 (10)生涯にわたる健康づくりの大切さを理解している。
-----------------------------	---

										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
										知識・理解		技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報活用法Ⅰ	人間学部 教授 惠原 貴志	1前	2	◎	電子メール、Web検索、ワープロソフト、プレゼンテーションソフト等を活用できる能力、および情報モラルを身につけることである。					◎						
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報活用法Ⅱ	経営学部 教授 佐々 木 万亀夫	1後	2	◎	表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、Webデータ等を活用できる。					◎						
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報社会論	理工学部 教授 亀山 充隆 / 准教授 佐々木 慶 文 / 助	1後	2	△	情報が社会にどのような影響を与えているかを具体的に学習し、いかにすればこの恩恵に供することができるか、いかにして負の側面を回避するかについて体得することが到達目標である。このために、情報通信技術の応用、情報リテラシー、情報メディア、情報セキュリティと倫理などについて理解を深める。					◎						
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	基礎統計学	経営学部 准教授 関 口 駿輔	1前	2	△	統計学の基礎である確率の考え方を理解し、活用することができる。					◎						
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	基礎数学	人間学部 准教授 阿 部 正典	1前	2	△	高校の数学で習う微積分法を中心に、数や式の計算法やグラフの使い方を、たくさんの課題に取り組みながら体験的に習得する。					◎						
基本教育科目	スキル養成	表現力	日本語技法A	人間学部 兼任講師 鈴木 洋子	1前	2	◎	・テキスト(含練習問題)の活用を通して、日本語のきまりや基本的な知識を理解することができる。・適切な表現でレポートや論文を書いたり、日常生活において、相手や場に応じた適切な日本語を使ったりすることができる。					◎						
基本教育科目	スキル養成	表現力	日本語技法B	人間学部 兼任講師 安齋 雅裕	1後	2	△	語彙力の養成は、「日本語技法A」の発展として、意見・論説・書簡文等の文章作成や修正演習を通じて、より質の高いものにする事である。また、諸文書作成のスキルについては、様々な様式を知り、実作演習をとおして、場に応じた的確な選択と作成ができるようにすることである。					◎						

必修選択においては必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目											
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語A	経営学部 兼任講師 上羽 広明	1前	2	◎	1. 基本的な語彙力と文法知識を養う。2. 英文を読むための基礎を身につける。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語B	経営学部 兼任講師 上羽 広明	1後	2	◎	1. 英文を理解するのに必要な語彙力と文法知識を養う。2. 英文の段落構造も捉えた上で読む能力を身につける。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語C	人間学部 教授 長谷川 香子	2前	2	HC:◎ HE:○	英文法の知識を基に、日英両語の相違点や発想の違い、及び英語独自の表現法を習得し、日本語に沿った正しい英作文とクリエイティブな英作文ができるようになることを目標とする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語D	人間学部 助教 黒志帆美	2後	2	HC:◎ HE:○	映画『ズートピア』の物語文を通じた英語読解力のスキルアップ				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションA	理工学部 兼任講師 柴田 和枝	1前	2	○	中学、高校の文法を復習しながら、英会話の基本を身につける。生活や身の回りに関する基本的な質問やその受け答えをパターンで覚えて、聞いて話せるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションB	理工学部 兼任講師 柴田 和枝	1後	2	○	前期に身につけた基本的な表現をさらに磨き、より複雑な会話表現をチャンク(意味のまとまり)として、パターンで覚え話す、聞く、書くことができるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションC	人間学部 兼任講師 設楽・レベッカ・リン	1前	2	○	英語で自己紹介ができ、自分に関する情報を相手に伝えることができる。英語で質問し、相手に関する基本的な情報を得ることができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションD	人間学部 兼任講師 設楽・レベッカ・リン	1後	2	○	英語で自己紹介ができ、自分に関する情報を相手に伝えることができる。英語で質問し、相手に関する基本的な情報を得ることができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語A I	人間学部 准教授 輪田 直子	1前	2	○	・発音記号(ピンイン)を習得し正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法をが理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語A II	人間学部 准教授 輪田 直子	1後	2	○	・中国語の正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語B I	人間学部 准教授 輪田 直子	1前	2	○	・発音記号(ピンイン)を習得し正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語B II	人間学部 准教授 輪田 直子	1後	2	○	・中国語の正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語A I	人間学部 兼任講師 大谷 尚文	1前	2	○	フランス語の基本表現と文法を学ぶことを目標とする。例文はフランス語の日常表現から採ってあるので、文法を勉強しながらフランス人の日常生活をかいま見ることができる。学んでいる文法事項に応じたシャンソン等を聞いたり歌ったりすることによって、フランス語を身近なものとする。				◎							

必修選択においては必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語A II	人間学部 兼任講師 大谷 尚文	1後	2	○	「フランス語A I」の続編として、フランス語の基本表現・文法を学ぶと同時に、例文を通してフランス語の日常表現を学ぶ。学んでいる文法事項に応じたシャンソン等を聞いたり歌ったりすることによって、フランス語が身近なものになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語B I	理工学部 兼任講師 マンス ヴィルジニ マリ レア	1前	2	○	フランス語の基本表現を学ぶことを目標とする。音声教材(CD)や先生とのやり取りを繰り返すことによって、フランス語コミュニケーションの二つの柱である聞く/話す能力を養い、最終的にはフランス語を聞いただけで、日本語を介さずにフランス語を理解できるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語B II	理工学部 兼任講師 マンス ヴィルジニ マリ レア	1後	2	○	フランス語の基本表現を学ぶことを目標とする。音声教材(CD)を繰り返して聞くことによって、フランス語コミュニケーションの二つの柱である聞く/話す能力を養い、最終的にはフランス語を聞いただけで、日本語を介さずにフランス語を理解できるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語A I	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1前	2	○	ドイツ語の発音を習得する。ドイツ語文法の基礎を理解し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになる。簡単なドイツ語を聞き取り、ドイツ語で自分のことを伝えることができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語A II	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1後	2	○	ドイツ語の発音を習得する。ドイツ語文法の基礎を理解し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになる。簡単なドイツ語を聞き取り、ドイツ語で自分のことを伝えることができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語B I	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1前	2	○	ドイツ語の発音ができるようになる。基本的なドイツ語表現を用いて自分の意志や情報を相手に伝えられるようになる。簡単なドイツ語が聞き取れるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語B II	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1後	2	○	ドイツ語の発音ができるようになる。基本的なドイツ語表現を用いて自分の意志や情報を相手に伝えられるようになる。簡単なドイツ語が聞き取れるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルA I	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1前	2	○	ハングルの読み書きと簡単な日常会話ができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルA II	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1後	2	○	日常会話でよく使われている表現が習得でき、学習した文章を正確にすらすら読むことができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルB I	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1前	2	○	韓国語による簡単な単語や表現を確実に身につけるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルB II	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1後	2	○	読む・書く能力を伸ばし、受け答えや初歩的なコミュニケーション力を身につける。				◎							
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア設計	人間学部 客員教授 木村 民男	1後	2	(◎)	社会人・職業人として自立していくうえで必要とされる「力」を理解する。その「力」を生かしていくための方法や大学生活の目標設定と将来設計を立てる基本的な知識と技術を修得する。						○	○	◎	○		
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア開発	経営学部 教授 湊 信吾	2通	2	△	・自分のキャリアをデザインすることができるようになる。						○	○	◎	○		

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア研究	人間学部 特任教授 有見 正敏	3前	2	△	1. 文献やインターネット等で業界・企業・職種の調査ができる。2. 外部講師の話や質問を通して、企業訪問への意欲をもつ。3. いくつかの企業訪問をして学んだことを、レポートにまとめ発表することができる。4. インターンシップへの意欲につなげることができる。							○	○	◎	○	
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	国際体験研修	経営学部 教授 湊 信吾	1～4集中	2		海外の人々と英語等の外国語によってコミュニケーションを図ることができ、異文化を幅広く且つ深く理解することができることを目標とする。							○	○	○	◎	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	フレッシュマンセミナー	人間学部 教授 長谷 川 香子	1通	4	(◎)	大学で必要となる基本的能力、さらに大学および社会での生活で必要となるさまざまな能力を総合的に身につける。				◎							
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	いしのまき学	経営学部 教授 湊 信吾	1前	2	(◎)	石巻市を題材として地方都市が抱える課題について考察します。この学習が一つの契機となって、石巻地域への興味・関心が芽生えたとともに、1年次後期以降に各学部が用意する専門教育科目へと継続・発展していくことが目標です。	△						◎				
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	復興ボランティア学	経営学部 教授 山崎 泰央	1前	2	△	震災被害や被災者の現状をしることで、震災の教訓を他人に伝えることができるようになる。地域の復興に問題意識を持ち、自分から進んで復興に貢献しようという意欲を持つ。ボランティア活動に参加し地域に貢献できるようになる。	△						◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	ボランティア論	人間学部 兼任講師 佐藤 正幸	1後	2	△	ボランティアについて、さまざまな角度から、各自が気づき考えることが出来る知識を身につけることを目標とする。							◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	ボランティア演習	人間学部 兼任講師 佐藤 正幸	2後	2	△	(1)社会福祉や特別支援における支援ニーズと支援の方法についての理解を深める。(2)ボランティアの意義について考察するとともに、ボランティア実践を通して意義についての理解を深める。							◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	総合科目	経営学部 教授 益満 環	1前	2	△	「オープンデータを活用し、地域社会の様々な課題を発見・解決策を提案することができる」ことを目標とする。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	日本の歴史	人間学部 兼任講師 佐々木 淳	1前	2	○	日本近世史(特に17世紀)を学び、歴史学の基礎を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	世界の歴史	経営学部 兼任講師 府中 望	1後	2	○	(1)ヨーロッパの歴史について政治・社会・経済の各方向から多角的に見据えるとともに、その複雑な絡み合いのなかから歴史が展開してきたことを総合的に捉えるための視点を養う。(2)ヨーロッパ各国の固有性が歴史的なプロセスのなかで形成されてきたこと、またそれによって各国、ヨーロッパ全体、ひいては世界の歴史が少なからず左右されてきたことを理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	異文化理解の人類学	人間学部 兼任講師 千葉 一	1後	2	○	インドの多様性とカースト制に関して深く論じることができる。また、インドの歴史が異民族の侵入と社会統合の模索である事を理解し、その思想的背景を深く理解できる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	哲学一知の起源一	人間学部 教授 西方 守	1前	2	○	講義内容を理解することと、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	◎										

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	芸術と文化	人間学部 兼任講師 森田 優子	1後	2	○	・地域や年代によってそれぞれ異なる美術作品のスタイル(様式)や表現を明確に捉える。・個々の美術作品のもつ文化的背景を理解する。・個々の美術作品に反映されたそれぞれの時代の芸術観を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	日本文学へのいざない	人間学部 准教授 遠藤 郁子	1前	2	○	・小説の基本的な読み方を身につけ、文脈に応じた内容理解ができる。・文学を社会との関わりの中で捉え、その関係性を説明することができる。・多様な日本文学に触れることにより、自らの思考の柔軟性を高め、広い視野を獲得できる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	法と社会	経営学部 教授 三森敏正	1前	2	○	我が国の主要な法律の概要と裁判制度を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	法と人権	経営学部 教授 三森敏正	1後	2	○	国の三権の統治の理解と国民主権及び基本的人権等を習得し、リーガルマインドの構築を目標とする。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	経済と社会	経営学部 准教授 関口 駿輔	1前	2	○	経済学的な考え方を理解し、経済・政治・社会・文化など世の中を客観的に理解し、展望することができる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	地理学―身近な地域から世界まで―	経営学部 准教授 庄子 真岐	1前	2	○	地理学の最も基本的な考え方を習得するとともに、地表上で生じている諸現象について地理学的な視点から分析し地域的な特性を把握できる力を身に付ける。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	地域と政策	人間学部 特任教授 横江 信一	1後	2	○	行政担当者による施策の解説を通して地域政策について理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	生命と地球	人間学部 教授 柳明	1前	2	○	生物の特徴を理解し、それを日常生活に役立てることができるようになる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	物質とエネルギー	人間学部 教授 惠原貴志 / 教授 指方研二	1後	2	○	身のまわりの「もの」の変化や性質、エネルギーに関わる事象を科学的に解釈できる様になることを目指す。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	環境と科学	理工学部 助教 中川 繭	1後	2	○	トランス・サイエンス的な社会問題を自然科学というフィルタを通して認識し、それについての自分の考えを他者に伝えられるようになる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	健康科学と身体運動	人間学部 教授 山内武巳	1前	2	○	健康科学と身体運動では、1:スポーツの知識・技能の習得2:技術レベルの異なるメンバーと協力しながらスポーツを楽しむために必要なエチケット、コミュニケーションスキルの習得3:リーダーシップの発揮、チームとしての問題解決等に関わる個人の資質を身につける	○									◎	
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	生活習慣と健康管理	人間学部 教授 山崎省一	1後	2	○	テレビ・新聞・インターネット等により健康に関する情報は日常的に氾濫している。多くの情報の中から有益な情報かどうかを判断出来る能力を身につけること、および自分の生活を豊かにするための健康について関心を持つようになること。	○									◎	

人間文化学科 専門教育科目カリキュラムマップ

人間文化学科のディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	人間文化学科では、学科所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与します。 1 知識・理解 (1) 文化学を構成する各分野について基本的な知識を身につけている。 (2) 文化学を構成する各分野の学問的体系性や各分野に特有の方法論を理解している。 2 技能・表現 (3) 文化に関する各種情報を収集し、自分の考えをさまざまな方法で的確に伝えることができる。 3 思考・判断 (4) 文化に関わる研究テーマについて、文化学の方法を用いて調査、分析、考察を行い、それを一定の成果としてまとめ上げることができる。 4 態度・志向性 (5) 文化学に関する知識や技能を活用して地域の文化振興に寄与できる。
------------------------------------	---

								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目					
								知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性		
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	人間学概論	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部 教	1前	2	◎	哲学、心理学、教育学、社会学、社会福祉学といった学問が人間に関してそれぞれどのような視点からアプローチをおこない、それをとおして人間のもついかなる側面を明らかにしているかを理解できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	心理学概論	人間学部助教 佐藤 誠子	1前	2	◎	心理学に対するこれまでの自身のイメージやマスメディアにより作られた心理学のイメージを明確にした上で、それらを批判的に捉え、科学としての心理学とはどのようなものか、自分の言葉で説明できる。人間の「心」について、知覚・性格・人格・発達・学習等の側面から具体的に理解する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	社会福祉論	人間学部教授 照井 孫久	1後	2	◎	1.現代社会に内在する生活課題に対応するための社会福祉の意義について理解する。2.さまざまな生活課題へ対応するための制度・政策の概要、及び社会的支援システムについて理解する。3.社会福祉の支援の中で活用される、対人援助技術の基本について理解する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	社会学概論	人間学部教授 佐藤 利明	1前	2	◎	個人と社会の関係について社会的に説明できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	教育学概論	人間学部教授 西方 守	2前	2	◎	様々な観点から「教育」とは何かということ、「教育学」とはいかなる学問かということ、そして「教育学」の歴史と思想について理解すること、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	復興の社会学	人間学部兼任講師 佐藤 翔輔	2前	2	◎	過去の災害における「復興」と東日本大震災における「復興」の現状を学び、地域の復興を自ら考え、主体的に実行する能力を身につける。	○				◎
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	人間文化入門	人間学部教授 根本 泉 / 恵原 貴	1前	2	◎	・「文化」の概念を理解できる。・文化と芸術、言語、生活、地域等との関係を理解できる。・今日の文化的諸問題を理解できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	言語コミュニケーション論	人間学部兼任講師 高橋 潔	1後	2	○	色々な言語学の分野から見たコミュニケーションの仕組み、裏に隠れている構造・規則を理解できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	異文化コミュニケーション論	人間学部教授 長谷川 香子	1後	2	○	1.中学校、高等学校の英語教員として必要とされる英語コミュニケーションの基礎的技能を習得し、考えや情報などを的確に理解し、円滑に伝えることができる。2.様々な地域の文化について知識と理解を深め、異文化を客観的に考察する能力を身につける。3.事例やデータを基に、英語を通じて実践的に議論できるようになり、より良い相互理解と共生のためのコミュニケーションの方法を習得する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	現代文化論	人間学部教授 松崎 俊之	2前	2	○	・「文化」の概念について理解できる。・現代文化を形作る基本的枠組みを理解できる。・現代文化を読み解くための鍵概念を理解できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	人間環境学	人間学部教授 恵原 貴志	1後	2	○	近年発生している環境問題について理解できる知識を身につけ、自らの判断によって生活環境を選択、改善する能力を身につける。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	地域社会論	人間学部教授 佐藤 利明	2前	2	◎	現代日本の地域社会の特質について説明できる。	○	◎			

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目					
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	地域福祉論	人間学部教授 照井 孫久	2前	2	○	(1)地域福祉の意義と基本的な理論について理解する。(2)地域福祉ニーズとしての生活課題と課題に対応する住民、行政、その他関係組織の役割を理解する。(3)高齢者福祉領域における取り組みを中心に、具体的な地域福祉の展開方法について理解する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学科専門基礎	人間文化基礎演習	人間学部教授 佐藤 利明	2通	2	◎	大学および社会での生活で必要となるさまざまな能力を総合的に身につける。			◎		○
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	総合英語演習 I	人間学部教授 大縄 道子	2前	2	△	・やや高度な英文の構造を理解し、内容の概要や書き手の意向などを含めて、英文を正確に理解できるようになる。 ・読解力と語彙力、リスニング力を中心に、英語に関する全般的な基礎力を向上させる。 ・日本語を介さずに平易な英文の概要を把握できるようになる。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	総合英語演習 II	人間学部教授 大縄 道子	2後	2	△	・基本語400-600語レベルの英文を分速100語以上で読み、概要を把握することができる。 ・比較的易しい英文を日本語を介さずに理解することができる。 ・自然な速度で話される英文のシャドーイングを行なうことができる。 ・英語独特のリズムや抑揚の感覚を理解し身につける。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国語中級 I	人間学部准教授 輪田 直子	2前	2	△	中国語の正確な発音を身につける。初歩の日常会話を習得する。中国語で書かれた平易な文章を理解し、基礎的な文章を作文することができる。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国語中級 II	人間学部准教授 輪田 直子	2後	2	△	「中国語中級I」に引き続き、正確な発音を身につけ、初歩の日常会話を習得する。中国語で書かれた平易な文章を理解し、基礎的な文章を作文することができる。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス語中級 I	人間学部兼任講師 大谷 尚文	2前	2	△	フランス語の基本文法を復習すると同時に、フランス語A、Bで扱えなかった文法事項を学習し、さらに平易なフランス語に触れることによってフランス語を身近なものとして感じることができるようになる。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス語中級 II	人間学部兼任講師 大谷 尚文	2後	2	△	「フランス語中級I」(旧:「地域言語研究」(仏語))の続編として、フランス語の基本文法を基本にして徐々に難解なフランス語表現に接近し、フランス語の世界の豊かさを認識し、3年次の「フランス語翻訳研究」への過渡的段階としてのフランス語を学ぶ。	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本語学 I	人間学部兼任講師 太田 有紀	2前	2	△	1. 日本語という言語について理解する。2. 日本語とはどういう言語であるか、その特徴を述べるができるようになる。	○	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本語学 II	人間学部兼任講師 太田 有紀	2後	2	△	1. 方言という日本語の変異について理解を深め、地域によりどのような特徴があるのか知る。2. 方言の存在意義を考える。	○	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英語翻訳入門 I		3前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英語翻訳入門 II		3後	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国語翻訳入門 I		3前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国語翻訳入門 II		3後	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス語翻訳入門 I		3前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス語翻訳入門 II		3後	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英語通訳入門		3前	2	△		○		◎		

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目					
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国語コミュニケーション		4前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス語コミュニケーション		4前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	比較言語文化論	人間学部 兼任講師 高橋 潔	3前	2	△	(1)日本語と英語の対比によって、英米の言語・文化・考え方への洞察力を身につける。(2)日本語および日本人、および英語そして欧米の文化や物事の捉え方への理解を深めることができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	言語学概論	人間学部 教授 長谷川 香子	3前	2	△	1.音韻論では、英語音の分類と英語のつづり・発音について学ぶ。2.形態論では、形態素・語基と語幹・IC分析・語形成について学ぶ。3.統語論では三大文法といわれる伝統文法、構造文法、変形文法の基本的概念と理論について学ぶ。4.意味論では、語・句・節の意味解釈と多義性・同義語・意味変化について理解するとともに、言語を身体性との関わりから捉える認知意味論について学ぶ。5.語用論の直示・発話行為・前提・会話の含意と情報構造の文・主題と構文・倒置と焦点化について学ぶ。6.実際の言語運用の実例から、言語習得過程と人間の言語能力について探究する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本文化論	人間学部 兼任講師 島山 浩一	2前	2	△	日本美術の基礎知識を取得し、時代ごとの特徴やその歴史的背景について把握する。日本美術に対する理解を深め、中国や西洋との文化的差異について考察するための基礎を築く。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英米文化論	人間学部 助教 目黒 志帆	2後	2	△	英米文化の諸相と、その文化が生まれるに至った歴史的・社会的・政治経済的背景を考えることで、異文化を理解することを目標としています。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国文化論	人間学部 准教授 輪田 直子	2後	2	△	現代の中国におけるいくつかの文化的特徴を理解し、併せてその源流にある伝統的な背景についても理解を深める。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス文化論	人間学部 兼任講師 矢野 禎子	2後	2	△	・映画、小説、シャンソンの代表的作品を通じて、フランス人の思想のみならず、歴史や地域性などに感性的・具体的に触れて、フランス文化と日本文化の違いを理解できるようになるだけでなく、ひいては自分の考えを明確に表現できるようになる。・レポートはメールの添付ファイルとして提出し、教員とのあいだの往復により、より完成度の高いものにしていく。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	比較文化論	人間学部 兼任講師 千葉 一	4前	2	△	アジアの農耕文化の多様性とその特徴を理解できる。またその知見をベースとして、日本文化の起源やその複合性、日本的思考などを認識できる。さらには、日本とアジア社会の共通基盤とその可能性をグローバルな視点から論じる能力を養う。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	芸術論	人間学部 教授 松崎 俊之	2前	2	△	・芸術の問題圏を形作っている基本的枠組みを理解できる。・芸術哲学上の重要概念と、それを構成している問題設定を把握できる。・芸術に関して、また芸術をもとに哲学する態度を身につける。・芸術全般に対して広く関心をもち、さまざまな芸術に親しく接するための素地を養う。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	芸術文化論	人間学部 教授 松崎 俊之	2後	2	△	・「芸術現象の最小単位のモデル」をもとに芸術一般の在り方を理解する。・「実演芸術のモデル」をもとに実演芸術の在り方を理解する。・〈アート・ワールド〉の基本構造とそれに直接間接に関わる諸問題を理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	音楽文化論	人間学部 教授 近藤 裕子	3後	2	△	興味のある曲がどのように構成されているか、その仕組みを解く。学生自ら初歩的な分析をして解説できるようにする。さまざまな表現を理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	メディアアート論	人間学部 教授 松崎 俊之	4前	2	△	・芸術とメディアとの関係を理解できる。・電子音楽の諸特性とその芸術としての可能性を理解できる。・コンピュータ・アートの諸特性とその芸術としての可能性を理解できる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本文学論	人間学部 准教授 遠藤 郁子	2前	2	△	・文学作品を分析するさまざまな方法を身につけ、活用できる。・多様な作品を分析的に読むことができる。・自分の読みを論理的に提示できる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本文学研究	人間学部 准教授 遠藤 郁子	2後	2	△	・文学研究の基本的な方法を理解し、自らの研究プロセスを設定できる。・自ら課題を設定し、問題解決にむけて、論理的に思考することができる。・自分の研究について、有効なプレゼンテーションができる。	○	○	◎	○	

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英米文学論	人間学部教授 大縄 道子	2前	2	△	・英米文学のおおまかな歴史の流れと背景を理解し、主要な作家や作品を覚える・興味を持った作品一つ以上について、自分の意見も含めたレポートを書くことができる	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英米文学研究	人間学部教授 根本 泉	2後	2	△	・近現代の英米の代表的な文学作品を読解する、英語の基礎力を持つ。・英語教育の現場で、語学テキストとしての文学作品を教授する能力を持つ。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国文学論	人間学部准教授 輪田 直子	3前	2	△	・中国の小説・演劇・語り物の代表的作品について概要を理解する。・中国文学の歴史における、小説・演劇・語り物など通俗文芸の位置や意義について理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	中国文学研究	人間学部准教授 輪田 直子	3後	2	△	中国の現代小説を翻訳と、部分的には原典も参考に精読し、作品の背景にある現代中国の社会状況について、関連映像作品なども参考にしながら理解する。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス文学論	人間学部兼任講師 大谷 尚文	3前	2	△	近代詩とは、フランス革命によって否定された既成宗教に代わって、人間の宗教感情をすくい上げる試みであることを理解する。・人間的要求と制限された実存の落差が近代詩のテーマの一つであり、従って西欧個人主義の問題と不可分であることを理解する。・人間のうちには変化するものと変化しないものがあり、近代の詩人は変化しないもの(宗教感情)を時代によって変化するものを通して表現しようとしたことを理解する。・レポートはメールの添付ファイルとして提出し、教員とのあいだの往復により、より完成度の高いものにしていく。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	フランス文学研究	人間学部兼任講師 大谷 尚文	3後	2	△	:(1)フランスの文学・芸術の原点としてのフランス中世の物語を知る。(2)仏検4級、3級または準2級程度のフランス語運用能力を獲得する。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	比較文学論	人間学部教授 根本 泉	4前	2	△	1.比較文学とは何かについて、その学問の歴史的経緯を含め理解することができる。2.内村鑑三の思想および文学論の特色を理解することができる。3.内村鑑三に影響を及ぼした英詩を読み、明治期の日本の英文学受容の一端に触れると共に、著名な英詩のいくつかを読解できるようになること。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	日本文化研究		3前	2	△		○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	現地語学実習	人間学部教授 根本 泉	1前	2	△	・海外の人々と英語によって、必要なコミュニケーションを図ることができる。・異文化への深い理解を持つことができるとともに、幅広い視点から自国の文化を見つめ直すことができる。	○		◎		○
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英米文学講読入門	人間学部教授 大縄 道子	1前	2	△	平易な英語で書かれた文学作品を丹念に読み、出来事や情景・心理描写をとらえることができる英米文学に親しみ、作品の背景にある異文化の理解を深める作品について自分なりの感想・意見を持ち、発表・議論することができる	○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	英語中級講読		3後	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	ことばと芸術文化	エッセイ・ライティング		3前	2	△		○		◎		
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	都市論	経営学部准教授 庄子 真岐	1後	2	△	地域を地理学的視点から多角的に捉える視点および各産業の立地理論を身につけ、都市地域、農村地域および両地域の関係に関わる現象や諸問題について自分なりの考えや解決策を提案できる力を養う。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域防災論	人間学部兼任講師 佐藤 翔輔	3前	2	△	地震・津波に強い地域づくりの対策を理解し、具体的な防災対策案を提案し実践することができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会調査論	人間学部教授 佐藤 利明	2前	2	△	社会調査とは何か、社会調査の歴史、社会調査にはどのような方法があるのかなど、社会調査の基本について説明できる。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会調査の基礎	人間学部教授 佐藤 利明	2後	2	△	社会調査の基本的なスキルについて説明できる。	○	○	◎	○	

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会統計学 I	人間学部 准教授 阿部 正典	2後	2	△	社会における様々な数値的なデータを図表化し、分析するための統計的手法を身につける。統計的なデータ分析に必要な数学的な知識を復習し、基本的な統計量の理解と計算の実践を行う。度数分布、回帰分析、検定や推定などの分析方法を実践的に身につける。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会統計学II	人間学部 准教授 阿部 正典	3前	2	△	社会における様々な数値的なデータを図表化し、分析するための統計的手法を身につける。統計的なデータ分析に必要な数学的な知識を復習し、基本的な統計量の理解と計算の実践を行う。度数分布、回帰分析、検定や推定などの分析方法を実践的に身につける。さらに多変量解析のさまざまな手法を学ぶ。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会調査演習	人間学部 教授 佐藤 利明	3前	2	△	質的調査を実施できる。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会調査実習	人間学部 教授 佐藤 利明	3通	4	△	社会調査を実施し、報告書を作成できる。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域産業論	経営学部 兼任講師 石原 慎十	2前	2	△	地域社会が抱える問題を理解することができる。 地域産業の活性化に向けた方策について提言することができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域経営論	経営学部 准教授 庄子 真岐	3後	2	△	地域社会が抱える構造的問題を把握するとともに、地域振興策を企画立案、実施するために必要な考え方を習得する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	福祉政策論	人間学部 教授 照井 孫久	2後	2	△	社会福祉政策の理念及び基本的な枠組みについて理解すると共に、年金、医療保障、介護保険、公的扶助等の社会的セーフティネットの現状と課題についての理解を深める。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	教育原理(中等)	人間学部 教授 西方 守	2後	2	△	講義内容を理解することと、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	教育哲学	人間学部 教授 西方 守	3前	2	△	教育哲学とはいかなる学問かということ、様々な哲学思想との関係において、そして方法論も含めて教育哲学の独自性において理解することと、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	学習心理学	人間学部 助教 佐藤 誠子	3後	2	△	・日常生活場面でみられる人間の学習について、行動論的アプローチと認知論的アプローチからとらえ、それらについて自分の言葉でまとめることができる。 ・心理学的な理論がどのように実際の日常場面と関連しているか、また、どのように教育実践に活かされるかを考えることができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会教育計画 I	人間学部 兼任講師 高橋 弘一	2後	2	△	子ども・若者を対象とした社会教育事業を中心に社会教育計画の現状を理解し、学習プログラムの企画立案の方法を身につける。	○	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会教育計画 II	人間学部 兼任講師 遠藤 光行	3前	2	△	・社会教育計画の意義と目的を理解する。 ・行政による社会教育計画の実態とその課題について理解する。 ・市民活動における社会教育計画の実態とその課題について理解する。	○	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会教育演習	人間学部 助教 杉浦 ちなみ	3後	2	△	・社会教育実践の歴史について理解を深める。 ・歴史の理解を通じて、地域の現状に目を向け考察する力をつける。 ・文献を読み、考察したことについてプレゼンテーションをする力をつける。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	生涯学習論	人間学部 助教 杉浦 ちなみ	2後	2	△	生涯学習及び社会教育の本質について理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域文化政策論	人間学部 教授 松崎 俊之	2後	2	△	・文化政策の歴史と諸制度、および文化振興上の意義について理解できる。 ・博物館(美術館)が地域の(芸術)文化振興にとって果たす役割を理解できる。 ・博物館の定義、種類、目的と方法等について理解できる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	アートマネジメント	経営学部 准教授 庄子 真岐	3後	2	△	博物館が果たす役割を理解するとともに、博物館における基本的な経営分析の手法を身につける。また、今後の博物館経営のあり方について自分なりの考えを提示できるようにする。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	教育社会学	人間学部 教授 佐藤 利明	2前	2	△	地域と教育の理論と課題。	○	◎			

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域・学校連携論	人間学部教授 笹原 英史	3前	2	△	学校と地域、各種の学校間の望ましい連携について考え、理解することができる	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会教育論	人間学部兼任講師 高橋 弘一	2前	2	△	社会教育における学習活動およびそれを支援する行政(職員)の役割について理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	生活環境科学	人間学部教授 指方 研二	2前	2	△	身のまわりの様々な化学製品(物質)と環境問題の関わりを学び、その知識が生活の中で活用できるようになることを目指す。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	くらしのバイオサイエンス	人間学部教授 柳明	2後	2	△	我々の暮らしに深く関わっているバイオサイエンスの知識や技術を理解し、豊かな日常生活を送るために役立てることができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	くらしの安全学	人間学部教授 惠原 貴志	3前	2	△	くらしの中に存在する危険を科学的知識を根拠として認識し理解できる能力を習得する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	生活文化論	人間学部兼任講師 千葉 一	2前	2	△	アジアの生活文化の多様性をとその特徴を理解・弁別できる。また、日本の衣食住の再認識する目を養い、アジアと日本の相違と類似について確かな知識を持つことができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	家庭支援論	人間学部助教 平川 久美子	3前	2	△	1. 保育の場における家庭支援の必要性を説明することができる。2. 現代の子育てで家庭を取り巻く状況を踏まえた上で、家庭の状態を理解することができる。3. 保育の場において、子どもだけでなく保護者も含めた家庭全体を支援することができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	子ども文化論	人間学部兼任講師 米澤 孝雄	3後	2	△	(1)子ども文化の重要性を理解する。(2)保育・教育実践で生かせる知識と技術を身に付ける。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	家族社会学	人間学部教授 照井 孫久	2前	2	△	家族とは何かという基本的な視点を確立するとともに、現代社会における社会的な変動に伴う家族のあり方の変化について理解する。そのうえで、現代の家族が抱える諸課題と、その超克のためのアプローチについて考察する。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	社会心理学	人間学部兼任講師 中尾 彩子	2後	2	△	個人が社会に与える影響と、社会が個人を動かす心的過程を、個人と社会の双方向から把握、理解する素養を形成するとともに、生起し得る諸現象の要因と要因間の関係性に着目して法則を見出し、個人と社会の変化を心的側面から予測可能にできる能力を育成する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	児童家庭福祉	人間学部兼任講師 鈴木 守幸	3前	2	△	(1)権利主体者としての子どもに対する理解を深める。(2)今日的な子ども、そして家族、さらには地域社会における諸問題について理解を深める。(3)児童(子ども)家庭福祉における法制度、サービス体系についての理解を深める。(4)児童(子ども)家庭福祉とソーシャルワークについての理解を深める。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	高齢者福祉論	人間学部教授 照井 孫久	3後	2	△	(1)高齢者の特質、社会環境、生活環境、及び福祉ニーズについて学ぶ。(2)高齢者支援に関連する老人福祉法、医療関連の法律等についての理解を深める。(3)介護保険法とその運用、ケアマネジメント、及び地域ケアの現状と課題について学ぶ。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	家族心理学	人間学部教授 佐藤 正恵	3後	2	△	1.家族システム論や家族ライフサイクルについて知識を得る。2.家族の発達過程で生じる心理学的諸問題について理解する。3.家族療法を中心とした臨床心理学的援助の在り方について学ぶ。4.家族を支えるコミュニティ支援の視点について学ぶ。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	臨床心理学概論	人間学部教授 佐藤 正恵	1後	2	△	・臨床心理学が介入する主要な心の問題(異常心理や精神病理)を説明できる。・臨床心理学的なアセスメント法を説明できる。・代表的な心理療法の理論と技法を説明できる。・臨床心理学的地域援助の内容や意義を理解している。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	人格心理学	人間学部兼任講師 中尾 彩子	2前	2	△	人格を構成する心理的諸要因間の関連を理解し、人格形成の法則性を導きだす能力の涵養を通じて、個人と集団の人間性の理解の深化を図る。	◎	○			

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	ホスピタリティー論	経営学部 特命教授 大森 信 治郎	3前	2	△	1.ホスピタリティーの本来の意味を理解する。2.ホスピタリティーの概念を多面的に把握し、現代社会におけるその役割と意義について理解する。つまり、様々なホスピタリティー関連の社会的現象について分析的に考察しうる能力を身につけることを、到達目標とする。3.ホスピタリティーある態度を習得する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	健康教育学	人間学部 教授 山 内 武巳	2前	2	△	健康づくり教室の計画を立案し、実施・評価を含めた健康アセスメントの方法について理解し、論じることができる。	○	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	運動方法学	人間学部 教授 山 内 武巳	3前	2	△	生活活動の動作に関する動きの仕組みについて理解し、理にかなった運動の動作とその機能構造の特徴を理解して生活動作に関する動作説明や修正を運動学の視点から行うことができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	運動生理学	人間学部 教授 山 内 武巳	3後	2	△	一過性の運動や継続的な運動トレーニングによって生じるヒトの生理機能の変化について学習し、健康増進と生活習慣病の予防における運動の必要性を運動生理学の視点から述べるができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	生涯スポーツ論	人間学部 教授 山 崎 省一	3前	2	△	生涯スポーツが個人人の健康に及ぼす影響を理解でき、スポーツを享受するためのスポーツ行政と政策が理解できるようにある。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	地域スポーツ論	人間学部 教授 山 崎 省一	3後	2	△	スポーツ行政と各種団体との関連性を理解するとともに、クラブ運営やスポーツ指導の実践を経験する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	スポーツ文化論	人間学部 兼任講師 甲斐 健 人	4前	2	△	(1)現代スポーツが様々な要素とかわりながら存在していることを説明できる。(2)スポーツを題材にして社会問題を考えることができる。(3)スポーツとのつきあい方を考え、教育や健康問題について考えることができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理学基礎実験	人間学部 准教授 永山 貴 洋 / 人間学部 准教授 永山 貴 洋 / 人間学部	2前	2	△	基礎的実験を通して心理学における実験的研究の基礎的体系的知識を身につけることを目標とする。また、実験に対象者として参加し、自らデータを分析することで、現象を客観的に分析する能力の習得を目指す。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理学基礎実習	人間学部 准教授 永山 貴 洋 / 人間学部	2後	2	△	心理学における調査方法に関する基礎的な知識を習得する。心理学的調査方法を通して現象を分析することを通して現象を実証的に解明する能力を身につけることを目指す。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	教育心理学	人間学部 助教 平 川 久美 子	1前	2	△	1.乳幼児期から青年期の各時期における発達の特徴について説明することができる。2.子どもの発達を踏まえた教育の重要性について説明することができる。3.「学び」を促す環境や働きかけについて具体的に説明することができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	行動科学	人間学部 兼任講師 中尾 彩 子	2前	2	△	1.行動科学における心理学の位置づけについて理解する。2.人間行動の起因である動機づけ、行動の形成としての学習、個人行動や集団行動に及ぼす心理学的諸要因などについて基本的知識を得る。3.身の回りの人間行動について心理学的な視点から解釈できるようになる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理統計法	人間学部 兼任講師 川原 正 広	2前	2	△	統計法を結果処理の手段としてではなく、研究計画の段階から適正な方法を考慮、選択できる能力や、結果を予測する能力を育成する。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	保育心理学 I	人間学部 教授 佐 藤 正恵	2前	2	△	1.乳幼児期の子どもの各発達段階の特徴を説明できる。2.生涯発達における乳幼児期の位置づけを理解し、初期経験の重要性を学ぶ。3.子どもが人との相互作用を通して発達していくことを具体的に学び、保育実践との関連を理解する。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理調査概論		3後	2	△	1.個人的、社会的問題の解決に心理学研究法を用いることの意義を説明できる。2.心理調査に用いる代表的な心理学研究法の概要を説明できる。3.問題解決に向けて現象を分析するための心理学研究法を選択できる。			◎		

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理アセスメント基礎実習	人間学部教授 佐藤 正恵	3後	2	△	1. 心理アセスメントの意義や実施にあたっての倫理について理解する。2. 代表的な心理アセスメントの方法を習得するとともに、それらの効用と限界も説明できる。3. 目的に応じていかなる検査を組み合わせるか理解する。4. 心理アセスメントによって得られた様々な情報から対象者を統合的に理解する方法を学ぶ。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	障がい児・者心理学	人間学部教授 佐藤 正恵	2後	2	△	1.障がい別の心理的特性について説明できる。2.障がいの種別や程度に応じて求められる指導や教育のあり方について学ぶ。3.障がい児・者をもつ家族への基本的な支援方法について学ぶ。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	保育心理学Ⅱ	人間学部教授 佐藤 正恵	3前	1	△	1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。3. 保育における発達援助について学ぶ。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	心理学研究法	人間学部兼任講師 中尾 彩子	3前	2	△	心理学研究法の歴史的変遷や各種研究法の特徴等について理解する。また、研究目的に照らし研究方法の適否を判断したり、自らの研究目的に合った実証的研究を計画、実施、分析できるための基本的な知識を得る。	○	◎	○	○	
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	認知心理学	人間学部兼任講師 渡邊 兼行	3後	2	△	記憶、言語情報の処理、推理、問題解決など、人間の認知機能に関する理論を理解し、自分の言葉でまとめることができる。また、これらの理論について日常生活と関連づけて考えることができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	生活と地域文化	健康心理学	人間学部准教授 永山 貴洋	3後	2	△	・健康心理学の基礎的な知識を習得すること・健康行動を促進する心理学の諸理論について理解を深めること・健康に関する今日的課題を理解し、実践的な介入方法について理解を深めること	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	自然環境論	人間学部教授 柳明 / 理工学部	2後	2	△	身近な自然環境とそこに生息する生物について理解する。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義Ⅰ	人間学部教授 根本 泉	2・3前	2	△	・英語について、ことばと芸術文化との関連において幅広く理解することができる。・社会の中で英語を活かす実践的な活動に触れ、英語を学ぶことの意義を深く理解することができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義Ⅱ	人間学部教授 長谷川 香子	2・3後	2	△	受講生各自が以下の中から、目標を選択・設定し、確実な目標達成を目指す。1. TOEIC高得点取得(500点以上)2. 英語検定試験合格(2級/準1級)	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義Ⅲ		3・4前	2	△		○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義Ⅳ		3・4後	2	△		○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	小学校の外国語活動	人間学部教授 根本 泉	4前	2	△	・小学生より、言語や外国文化への興味を引き出す、教授法や教材についての知識を身につける。・中学校での学習への橋渡しとして、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、基礎学力を涵養する教授上の技術と知識を身につける。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育総合英語Ⅰ	人間学部助教 黒 志帆 美	1・2前	2	△	中学校・高等学校の英語教員として必要とされる英文法を中心とした総合的英語力を身につけることが本授業の目標です。	○	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育総合英語Ⅱ	人間学部教授 根本 泉	1・2後	2	△	様々なジャンルの英文を、辞書を用いて正確に読むことができ、かつ読んだ英文の内容について、英語でディスカッションをすることができる。	○	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教職概論(中等)	人間学部教授 佐藤 幹男	2前	2	△	1教員の職務、身分、服務、研修等について理解する、2教員に求められる資質について理解する、3適性や能力に応じた適切な進路を選択できる、4教職の現状や課題について、みずから考えることである。	○	◎			

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲

科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
									知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育課程論(中等)	人間学部教授 笹原 英史	3前	2	△	学校現場において、実際の授業やさまざまな指導を担当するのに必要な最低限の知識・技能の習得を目指す。具体的な目標としては、1教職課程の意義、タイプと特徴、編成とマネジメントの方法を理解する、2教育課程や学習指導要領、教科書の変遷を理解する、3教育課程をめぐる今後の課題について理解する、4実際のカリキュラムが指導を通してどのように実施されているのかについて理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育制度論(中等)	人間学部教授 佐藤 幹男	2後	2	△	教育行政と教育制度に関する基本的事項を理解し、学校教育現場での問題点を教育法規に照らして解決できるようにする。1教育基本法制定の背景と、その目的、理念、教育の実施に関する基本等について理解する。2教育行政制度に関する基本的法律を理解する。3学校教育現場で起きている諸問題を解決できるように、教育行政・制度と関係法規に習熟する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	生徒・進路指導の理論と方法(中等)	人間学部助教 佐藤 誠子	2後	2	△	・学校教育における生徒指導および進路指導の意義および目的について、自分の言葉でまとめることができる。・生徒指導および進路指導の目的に沿った支援のあり方について、具体的に考えることができる。テーマ:生徒一人一人の自己指導能力を高める支援としての生徒・進路指導	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育相談の理論と方法(中等)	人間学部助教 佐藤 誠子	2前	2	△	・教育相談の理論、目的、方法について、自分の言葉でまとめることができる。・教育相談の観点から、学校教育場面(授業、課外活動、教育相談等)における教師の望ましい姿勢のあり方について具体的に考えることができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	発達心理学	人間学部助教 平川 久美子	3後	2	△	1. 子どもの発達を踏まえた保育・教育の重要性について説明することができる。2. 「発達」という視点から子どもを理解することができる。3. 特別な配慮を必要とする子どもの支援の進め方について説明することができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	道徳教育の指導法(中等)	人間学部教授 新福 悦郎	3前	2	△	(1)「道徳」とは何かについてみずから考える、(2)道徳教育の意義・歴史、現状や課題について理解する、(3)「道徳」の目標・内容、指導方法と評価について理解するとともに、指導案の作成と実際の指導を体験する、(4)道徳性の発達について理解することである。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育心理学(中等)	人間学部助教 佐藤 誠子	1後	2	△	・学校教育場面や日常生活面でみられる、子どもの発達や「教える・学ぶ」の関係などについて、教育心理学的視点から自分の言葉でまとめることができる。・心理学的理論がどのように実際の実践に活かされるかを考えることができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育方法論(中等)	人間学部教授 笹原 英史	3後	2	△	学校現場において、実際の授業やさまざまな指導を担当するのに必要な最低限の知識・技能の習得を目指す。おもな目標は1学習指導の原理と具体的な方法について理解する、2教材研究や授業づくりの基本、アクティブラーニングの意味と方法、について理解する、3授業に用いられる新しいメディア(ICTの利用など)の特徴と指導法を理解する、4授業の分析や評価の意義と方法を理解することである。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特別活動の指導法(中等)	人間学部教授 笹原 英史	3後	2	△	おもに中学校、高等学校で特別活動の指導を担当するのに必要な実践的知識・技能の習得を第一の目的とする。具体的には1教育活動における特別活動の意義、現状と課題を理解する、2特別活動の種類と特徴、それぞれの目標と内容について理解する、3特別活動の全体計画・年間指導計画・指導案立案の手順と方法について理解し、指導の実際を知る、4特別活動の評価の意義と方法を理解することである。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	中等教科教育法Ⅰ(英語)	人間学部教授 大縄 道子	2通	4	△	1. 中学校、高等学校の英語の学習指導要領と教科書について、目標や指導内容を理解する2. 英語教育方法に関する諸理論と具体的な指導技術について理解する3. 授業実践に必要な指導と学習評価の基礎を身につける	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	中等教科教育法Ⅱ(英語)	人間学部教授 大縄 道子	3通	4	△	1. 中学校、高等学校の英語の学習指導要領と教科書について、目標や指導内容を理解する2. 英語教育方法に関する諸理論と具体的な指導技術について理解する3. 授業実践に必要な指導と学習評価の基礎を身につける	○	◎			

必修選択においては必修◎、選択必修○、選択△、自由▲								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目					
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解		技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育実習事前事後指導	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部教授 笹原 英史	4前	1	△	教育実習(教育実践を体験し、現場の教員の指導を受けることをとおして、大学でのこれまでの学習を反省するとともに、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を再確認する)の前提として必要な知識・技能、態度を修得し、教育実習で学んだことをその後の学習に生かす方法について学ぶ。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	中学校教育実習 I	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部教授 笹原 英史	4前	2	△	教育実践を体験し、現場の教員の指導を受けることをとおして、大学でのこれまでの学習を反省するとともに、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を再確認する。	○				◎
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	中学校教育実習 II	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部教授 笹原 英史	4前	2	△	教育実践を体験し、現場の教員の指導を受けることをとおして、大学でのこれまでの学習を反省するとともに、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を再確認する。	○				◎
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	高等学校教育実習	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部教授 笹原 英史	4前	2	△	教育実践を体験し、現場の教員の指導を受けることをとおして、大学でのこれまでの学習を反省するとともに、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を再確認する。	○				◎
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教職実践演習(中・高)	人間学部教授 笹原 英史	4後	2	△	学生各自がこれまでの教職に関する学習や経験を振り返り、発表やグループ討論、全体討論や教員(教職課程専任教員、学校勤務経験のある特命教員2名、必要に応じて「教科に関する科目」担当教員)よりのコメント・アドバイスをとおして自己の問題点と今後の学習課題をより具体的かつ明確なものとする中で、教職への将来的展望を開かせる。	○	○	○	◎	
専門教育科目	専門研究科目	人間文化演習	人間文化演習 I	人間学部教授 松崎 俊之	3通	4	◎	各担当教員が設定した到達目標	○	○	○	◎	○
専門教育科目	専門研究科目	人間文化演習	人間文化演習 II	人間学部教授 山内 武巳	4通	4	◎	各担当教員が設定した到達目標	◎	◎	◎	◎	◎
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館資料論	人間学部兼任講師 佐藤 敏幸	3前	2	▲	博物館資料の概念、博物館における調査研究活動、博物館資料の収集・整理・活用の方法について説明できる。	○	◎			
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館資料保存論	人間学部兼任講師 佐藤 敏幸	3後	2	▲	資料保全(育成)の方法、博物館資料の保存環境、環境保護と博物館の役割について説明することができる。	○	◎			
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館展示論	人間学部兼任講師 佐々木 淳	3前	2	▲	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。	○	◎			
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館教育論	人間学部兼任講師 佐々木 淳	3前	2	▲	博物館活動の重要な柱の一つである博物館における教育について、主に人文系の博物館を例にとりて講義し、博物館学芸員として必要な知識・技能を習得する。	○	◎			
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館情報・メディア論	人間学部兼任講師 佐々木 淳	3後	2	▲	・博物館における情報・メディアの意義について理解する。・博物館情報・メディアの理論について理解する。・博物館における情報発信の方法について理解する。	○	◎			
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	博物館実習	人間学部兼任講師 佐藤 敏幸	4通	2	▲	博物館学芸員の各種実務について説明でき、資料の取り扱い、展示や教育普及活動の企画立案等の実践ができる。	○				◎
専門教育科目	特別教育科目	特別教育科目	社会教育実習	人間学部助教 杉浦 ちなみ	4前	2	▲	実務実習をとおして社会教育主事に必要とされる知識・技能等の基礎を修得する。	○				◎
専門教育科目	ジョイントプログラム	観光プラス	観光学	経営学部准教授 庄子 真岐	2前	2	△	「観光」を体系的に理解し、観光や観光関連産業の専門的な知識を習得する。					
専門教育科目	ジョイントプログラム	観光プラス	地域観光論	経営学部准教授 庄子 真岐	2後	2	△	各地で実施されている観光を通じた地域振興策を理解するとともにその企画立案や実施するために必要な考え方を習得する。					
専門教育科目	ジョイントプログラム	観光プラス	産業観光論	経営学部教授 丸岡 泰	2後	2	△	以下の理解を目指す。(1)産業構造変化の理論、(2)資本と労働の見方、(3)国内外の産業の現状。					